

此の頃

藤 堂 恭 俊

雨の日は枝もたわゝになる柿のしづくに濡れてひかりたどづむ

草の葉の露に宿れる月影もこはに輝く光なるらん

待ちわびし今宵の空もくもるなり雲のかゝらぬ月ぞ戀しき

夜もすがら秋を戀しこ鳴く虫の聲こし聞けぞ我心かな

窓の戸に耽ゆく月を眺めつゝ今宵も獨り虫の聲きく

虫の音は何を戀しこ夜もすがら消え行く身をも忘れてや鳴く

秋雨のしづくの音ぞなつかしきふみ讀む窓の耽しこの宵

我が影の大いなるかな路照らす光り仰ふけば月ぞ冴ゆく